

パソコンと健康教育 = コンピュータで人間ネットワークを広げよう =

愛知県扶桑町立山名小学校

桑原朱美

養護教諭のコンピュータ活用の現状

教育の IT 化が進む中で、保健室の執務や健康教育の推進においても、コンピュータが活用されるようになってきた。慣れるまでの一定期間の苦勞をクリアすれば、コンピュータはすばらしい右腕となってくれることに、多くの養護教諭が気づいているはずである。

以下に、養護教諭の主なコンピュータの活用方法をあげてみる。

ワープロソフト・表計算ソフトの活用

一般的な文書作成やほけんだより作成は、最もポピュラーな活用方法である。

毎年の統計処理に、エクセルやロータスなどの表計算ソフトを活用する。

インターネットによる情報検索

健康課題解決の糸口となる情報を、インターネットで情報収集をし、これを参考に自分の学校の健康教育の推進に生かす。

電子メールなどによる連絡・情報交換

電子メールは、電話や FAX に比べ、保健室を空けられない養護教諭にとってはたいへん心強い味方となっている。

プレゼンテーションへの活用

こうした活用が進む一方で、コンピュータアレルギーを持つ養護教諭があることも事実である。その理由の 1 つに、「コンピュータは難しいハイテク機器」というイメージを持っていることがあげられる。

しかし、ここ数年の教育の IT 化の方向性としては、「ハイテク機器」としてのコンピュータではなく、「人間ネットワークを広げる媒体」としての性格が強く打ち出されている。校内ネット

ワーク(校内 LAN)の整備が進んでいる現在は、コンピュータそのものの活用より、どうつながるか、どのように情報共有していくのが主なテーマとなっている。養護教諭のコンピュータ活用においても、そうした方向から考えていけば、これまでのイメージとは一味違った、さらに踏み込んだ活用の方法が開けてくるであろう。

以上を踏まえて、筆者による実例をまじえて、コンピュータの活用を考えてみたい。

執務を効率化し、校内連携を助ける活用

hime-Application の開発

養護教諭の執務の中でも、健康診断の結果の処理や統計、治療勧告書の作成は、多くの労力と時間を要するものである。この作業にパソコンを活用している養護教諭も増えている。

筆者は Microfoft 社の Access というデータベースソフトを使い、健康診断結果処理プログラム「hime-Application」を作成した。

このプログラムの使用により、

(ア) 各自の健康診断の入力データをもとに、必要な統計が自動的に処理され、個人データの他、学級別・学年別・疾病別など、必要に応じた形で呼び出すことができる。

(イ) 入力したデータから、定型の書式に健康診断結果をプリントアウトできる。

など、1 学期の執務は、大幅に効率化した。

来室者・出欠管理ソフトの活用

市販の保健室来室記録と出欠管理ソフト(はぐくみ)の活用例を紹介する。

(ア) 毎月の学級別来室者データを担任に配布したり、欠席の多い子や頻回来室者をデータとして会議等で報告する。担任に保健室来室状況や「気になる子」について話し合ったり、職員の共通理解を図るための資料となる。こうしたデータの活用は、職員の保健室理解や学級との連携に役立つ。

(イ)学校公開日等で、保護者から子どもの来室状況の問い合わせに、必要なデータを提供することで保健室経営への信頼につながる。

こうしたプログラム等の活用は、執務の効率化・ペーパーレス化の推進だけでなく、必要なデータを学級や家庭（個人）に短時間でフィードバックできるという利点がある。

なお、健康診断処理プログラムと来室者・出欠管理が統合されたソフトは、(株) エドウェルで開発されている。初心者にも使いやすく、学校の実態に合わせて内容をカスタマイズしてくれるという優れたものである。筆者の勤務する愛知県扶桑町でも、来年度導入が決定している。

保健授業の教具教材作成のための活用

教具の作成に活躍するのは、ワープロソフト、表計算ソフトである。実際の活用例を挙げる。

- (ア) フラッシュカードやグラフ化した資料などをカラー印刷して、授業で使用する提示資料を作成する。
- (イ) デジカメの写真をコンピュータに取り込んで、掲示物を作成する。アイデアしだいで活用の幅は大きい。
- (ウ) 保健だよりも、内容によってはデジカメ等を使用し、できるだけ視覚に訴えるようなものを作成してみる。保護者もビジュアル世代になってきているのである。

PowerPoint などのプレゼンテーションソフトは、基本的な機能については、ワープロソフトより簡単である。実際の活用例を挙げる。

- (ア) デジカメやスキャナを駆使してのデジタル紙芝居、クイズ教材を作成した。授業全体をこの教材で進めたり、ノートパソコンとプロジェクターを教室に持ち込んで授業の一部に使用したりするなど、内容によって使い分ける。
- (イ) 学校保健委員会でのプレゼンテーショ

ンに利用する。視覚に訴えることで、伝えたいことを効果的に表現できる。

PowerPoint は集会等や授業用の教材作成にも活用できる。ワープロソフトのホームページ作成機能も教材作りに活用するとおもしろい。撮影したビデオを動画編集し、ミニ番組を作成するという活用もできる。使用する人のアイデアひとつで活用方法は無限である。

人と人を結び、視野を広げる活用

養護教諭同士のつながりを深める活用

養護教諭は一人職・専門職であるがゆえに独りよがりな考え方を引き起こす場合がある。そこに陥らないために、執務や実践についての意見交換・交流・情報共有ができるネットワークが必要である。インターネットの普及は、人と人を結ぶ新しいネットワークを可能にした。

筆者が3年前に立ち上げた自主研究会「ひだまり」では、月1回の例会の他に、メーリングリスト（以下、MLと表記）による情報交換をしている。「学校保健委員会で をテーマに開催予定。いい講師ない？」「執務の悩み 聞いて！みんなはどう思う？」「いい本を見つけたので紹介！」「 研究会参加報告！」など、さまざまな内容が飛び交う。こうした日常的な情報交換は、私たちの執務の中から「いまさらこんなこと聞けない。」「自分の実践は自分だけのもの」という意識を取り払うであろう。

これらの情報も、ホームページで公開すれば、いつでも情報が引き出せる。共同開発した指導案や教材を、外部記憶メディアなどにまとめれば、さらに活用しやすい。各校で作成した教材や資料なども、コンピュータを媒体として「共有」すれば、地区全体の健康教育の質の向上に役立つであろう。それは、単に「モノの共有」ではなく、確実に人と人の気持ちをつなぎ、人と人のネットワーク化に寄与していることはい

うまでもない。

他分野との交流で視野を広げる活用

養護教諭の執務や健康教育とあまり関連のなさそうな他分野との交流も、養護教諭の視点を広げ、執務や健康教育を深めていくのに必要なことととらえたい。その視点を挙げてみる。

- (ア) 最新の教育技術や教科の指導テクニックなどを健康教育に取り入れる。
- (イ) 養護教諭や健康教育に対して一般教員と意見交換し、自分の執務に生かす。

現在、ネット上では、さまざまな立場の人がMLを立ち上げたり、メールマガジン（以下、MMと表記）を発行している。「授業作りネットワークML・MM」「メディアリテラシー教育ML・MM」「ちょっと教育を語ろうML」などは、おすすめである。積極的に参加し、視野を広げ、常に最新の教育の流れ、社会の流れを把握し、それを健康教育に応用したいものである。

養護教諭としての思いを伝える「発信」

ネット上のさまざまな情報は、自分から動いてつかみたい。受身ではなく、積極的に発言・発信していけば、新しいものが見えてくる。MLの中でも、積極的に自分の意見を伝えるという行動が人とつながるための第一歩であろう。

また、各校のホームページの保健室のページは、大切な発信の場として活用したい。実践の紹介だけに終わらず、養護教諭の子ども観・健康観が見えてくるものにしたい。発信すれば反応がある。それは、コンピュータの向こうに「人」がいるという事実そのものである。

終わりに

コンピュータを活用した情報共有・交流は、コンピュータを「私の保健室」だけのものとせず、これを介して、人とつながっていくことを求めていくという視点での活用と考えたい。つまり、血の通った健康教育を実践していくため

の存在としてコンピュータの活用が今後の課題となってくるであろう。

参考文献等

健康教育研究会ひだまり資料・ホームページ

<http://www.geocities.co.jp/Milkyway-Kaigan/1429/>

EDUCOM 連絡先

愛知県春日井市出川町 2 丁目 2-7 TEL :
0568-53-1288